

◎西海道の旅の話

西海道とは、本洲、四國の西海にゐる九州島と、其北海の二島と、南西海の群島とを併せ稱するもので、筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、壹岐、對馬、琉球の十二國より成りたち海岸の屈曲特に甚しく附屬の島も夥多あります。又氣候は最も暖氣にて、大抵は地味肥えて穀物等を産し、山林、礦山、礦泉も多くあります。さて四國を發して馬關へ行き、速瀬の瀬戸、即ち赤間海峽を渡つて、豊前に至り、小倉へ上陸しました。小倉は國の北端にあつて、馬關と僅かに三里の海峽を狭み、大口一万六千餘、小倉織を産し、甚繁華の港市です。小倉より東北海峽の沿岸に門司港があつて、長門の豊浦と相望み、是より博多、久留米等を経て熊本へ瀛車の便があります。さて、小倉より東南海岸道へ出で、順路山國川即ち上流には有名の耶馬溪があります。

豊前國

小倉

門司

◎耶馬溪ノ記

瀬

襄

余嘗て昔人ノ書ヲ讀ミ、其山貌ノ太々奇峭ナルヲ疑ヒ、恐クハ天壤間ノ有スル所ニ非ス、番人一時興到リ、其筆墨ヲ鼓舞スルノミト、豊ノ耶馬溪ヲ觀ルニ及ンデ、乃知ル造物奇怪、畫手亦寫シ到ラザルモノアルユトヲ、歲戊寅、鎮西ニ遊ヒ、海ヲ過キテ南彦山ヲ雲際ニ望ミ、已ニ其異アルヲ覺ユ、既ニシテ二肥薩隔ヲ經、還テ豊後ノ隈村ニ寓ス、臘月五日、豊前ニ入り、一水北ヨリ來ルニ遇フ、蓋シ源ヲ彦山ニ發スルモノコレニ沿フテ東スルコト數十里、昏黑ナルコロ左右ノ峰巒皆凡ニ非ルヲ覺ユ、山溪相迫ル所、山脈ヲ突チテ道ト爲シ、又隔ヲ穿チテ明ヲ取ル、余炬ヲ買フテ以テ入ル、隔ニ遇フテ、窺ヘバ、月ノ溪水ニ在リテ、朗然タルヲ見ル、民家ニ宿ス、翌大霧霽ル、ヲ待テ即發シ、又溪ニ沿フテ東ス、愈、東スレバ愈、奇ナリ、群峰水ヲ夾ミ、攢竦タルコト、春筍ノ盡出スルガ如シ、土ノ石ヲ載ク者、石ノ土ヲ夾ク者、全石ナル者、全石破裂シテ、洞穴ト成ル者、兩石相闔ヒ、其一仆レント、欲スル者、石數層累ナリテ、夏雲ノ

狀ヲ成ス者アリ、而シテ樹ハ石罅ヨリ横生、縱生、倒生シテ、上指ス、叢生
 シテ石ヲ蔽ヒ、石ト勢ヲ争フテ、而シテ之ニ勝タント欲スルガ如シ、石
 又樹中ヨリ奮躍シテ出ツ、而シテ石陰皆苔、紫綠相間ハリ、或ハ石ノ半
 面ヲ没シ、或ハ全身ヲ没ス、又樹ヲ援ケテ石ヲ攻ムル者ノ如シ、大抵峰
 勢石皴、董巨刻意ノ圖ノ如シ、時ニ窮冬老木葉脱スルモノ多ク、槎牙瘦
 古、皆倪黃ノ筆法ニシテ、而シテ苔枯、盛蒼渴ナル者、王叔明ナリ、古人ノ
 筆墨吾ヲ欺カサルナリ、柿阪ニ至リ、孤店ニ憩フ、店石壁數丈ナルニ面
 シ、飛泉之ニ懸カル、仰ゲバ則更ニ高峯アリ、其幾十丈ナルヲ知ラズ、余
 急ニ佩フル所ノ酒瓢ヲ釋キ、命ジテ之ヲ燂タメシム、隨突蕭然タリ、會
 一獵師新ニ豪猪ヲ獲、割テ而シテ之ヲ羹ル、肪脆水ノ如シ、數大白ヲ連
 引ス、又行ク、溪又數曲、峯勢ニ隨テ上下シ、或ハ激雷噴雪、或ハ停膏凝碧、
 峯影是レガ爲ニ、或ハ碎ケ、或ハ全シ、水ノ山ヲ妬ンテ、其影ヲ亂ルニ似
 タリ、屈智林ニ至レバ、溪稍開ク、小村アリ、一橋ヲ過ギ、是レヨリ溪北ヲ

行ク、開クモノ益開ク、數十里古城正行寺ニ詣ル、寺主舍公ハ余ノ故人
 ナリ、余ヲ俟ツコト既ニ久シ、余先ツ説ケテ曰ク、君ノ州ノ山水大ニ奇
 ナリト、舍公曰ク、更ニ奇ナルモノアリ、予ナシテ之ヲ目セシメン、居ル
 コト二日、舍公ト與ニ南ニ行ク、田厓ノ間ヲ行キ、仙人ノ巖ニ至ル、巖石
 山頂ニ突立ス、舍公指シテ余ニ之ヲ示ス、余甚ダ賞セズ、其明又田厓ヲ
 經テ羅漢寺ニ至ル、寺山ニ据リ、山ヲ鑿テ、洞壑橋梁ノ狀ヲ作ス、五百像
 ヲ安ス、余復甚ダ賞セズ、寺前ノ逆旅ニ宿シ、燈ヲ挑ゲテ談ズ、余曰ク、山
 ハ水ヲ得ザレバ生動セズ、石ハ樹ヲ得ザレバ蒼潤セズ、余ノ馬溪ヲ賞
 シテ、仙巖ヲ賞セザル所以ナリ、羅漢ニ至ツテハ、即人工ノミ、皆馬溪ノ
 支裔ナリ、且馬溪ハ溪山相迫リテ、田厓ノ目ヲ礙ギルナシ、而シテ其路
 坦夷、眞ニ遊ブベキナリ、然レドモ二豐ノ通道トナシ、過グル者看ルニ
 慣ル、況ヤ公等此土ニ生長スル者ヤ、宜ナリ、其奇ヲ覺エザルコト、余
 ハ即再遊期スヘカラス、將ニ又之ニ溯リテ以テ之ヲ諦視セントス、舍

公袂ヲ奮フテ與ニ偕ニ早發ス。一水ヲ過キ、北馬溪ノ口ヲ出ツ、峯容樹
 忽チ廻カニ別ナルヲ覺ユ。淺ヨリ深ニ入り、平ヨリ奇ニ入り、前ノ數曲
 ナリ、又絶壁下ノ孤店ニ至ル。店主余ノ面ヲ識ル、驚テ曰ク是レ前ニ猪
 ナ食フ客ナリ、何ノ幹アリテ再ビ此ニ來ルヤト。余曰ク山ヲ看ント欲
 スルノミ、曰ク山何ノ好看アラン、吾子ノ看ルヲ禁セザルナリト。遂ニ
 溪畔ニ席シ、含公ト瓢ヲ傾ケ、一醉シテ山寺ニ宿ス。明クレバ雨フリ、轡
 ナ借リテ西ニ還ル。山峯雨ヲ得皆變幻態ヲ作ス、或ハ前ニ以テ一山ト
 ナスモノ、分レテ數峯トナリ、群仙肩ヲ駢ベテ其牛身ヲ露シ、萬松鬣ヲ
 振フテ雲中ニ鼓濤スルカ如ク、又二十五菩薩ノ樂ヲ奏シテ至ル如キ
 ナリ、還テ屈智林ニ至レバ、含公吾酒ノ盡クルヲ慮リ、預メ家僮ヲ戒メ
 轡ヲ馬ニ馱シテ來ヲシム。醉ヲ取テ阿保村ニ宿ス、翌寺ニ歸ル、又三日
 辭シ去ル。海ヲ踰エテ東ニ歸ル。海雲中ヨリ鎮西ノ山岳ヲ願望スルニ

其豊前ニ屬スル者ハ、皆別態アリ、彦山其尤大ナル者、耶馬ノ山脉水理
 皆彦山ヨリ發ス、故ニ獨絶ノミ、余ノ足跡幾ンド海内ニ半バズ、弱冠東
 ニ遊ビ妙義山ヲ得テ以テ無雙ト爲ス、今馬溪百里、妙義ノ如キ者、幾十
 峯ナルヲ知ラズ、之ヲ海内第一ト云フモ、或ハ誣ザルナリ、己卯ノ臘、癸
 ナ牘ヲキ爾時山ヲ寫スノ粉本數紙ヲ得、戲レニ意ヲ以テ之ヲ接屬シ、
 橫長ノ一卷トナス、又其由ヲ記シ、併セテ得ル所ノ詩九首ヲ錄ス、余詩
 文笨拙、其髣髴ヲ狀スルニ足ラズ、況ヤ畫ヲヤ、後能者ノ董巨倪黃ノ流
 ノ如キ者アリテ、其境ヲ踰デ而シテ之ヲ補成セバ、此山水ニ負カザル
 ニ庶幾ラン、然レドモ此山水ヲ目シテ海内第一ト爲ス者ハ、乃頼子成
 ヨリ始マル、圖ハ含公ノ爲メニ取り去ラル、備後ノ故友、橋元吉亦山水
 ナ好ミ、爲メニ一本ヲ寫サント請フ、諾シテ而シテ未果サズ、今茲己丑、
 母ヲ護シテ尾ノ道ニ至リ、留ル旬日、乃前約ヲ踐マントス、而シテ舊圖
 在ラズ、諸レヲ胸憶ニ尋子、冥搜默運、山精水神、或ハ來リテ我ヲ助クル

中津

宇佐

ヲ覺ユ、遂ニ能ク此レヲ成ス、指ヲ屈スル已ニ二十二年、憶フニ當時歸帆ノ外、豊山依々トシテ相送ル者ノ如シ、今猶目中ニ在ルナリ、山田川の河口に邊へ行きますと、中津といふ地があります。中津乙内海の周防灘に臨み、人口一万二千を有する繁昌の地です。此近傍は生蠟の製造最も盛んです。又其東南の方に行くと、宇佐には有名の宇佐八幡宮があつて、昔稱徳天皇の御代、和氣ノ清麻呂が神勅を得て、道鏡の無道を誡めた、忠義の心を徐に思ひ深みます。而て宮之崇神天皇を祀れるものです。宇佐を立つて、今度は豊後の北東部に入りました。豊後の北東部は、豊前に接して東に半島をなし、其南に一灣を擁し、半島の中央に乙文珠岳が峙ち、南に美濃崎があつて、國の中央東端乙地藏岬です。地藏崎は伊豫の佐田岬と内海の口をなす所です。其は偕て置き、北部より順路別府とて灣頭にあつて、大阪と通船のある名邑を過ぎ、先づ大分へ行きましました。

豊後國

大分

大分は府内と申し、大分川河口の西にわつて、灣の南岸に臨む繁盛地で、大分縣廳もあり、其人口は、一万千を有します。此邊は平野數里に亘り、田野も大に開けて居ます。是より海岸に就いて東に行き、大野川の邊に行きますと、其沿岸地方に乙牛馬を養ふ牧場も多くあつて、川を渡り東に行けば、佐賀の關港があります。是より南部へ掛けて海濱乙小屈曲が多く、九十九浦と稱へて、漁獵最も盛んな所です。尙海岸を巡つて、白杵へ行きますと、此地は大坂と、漁船も通ひて繁昌致し、人口も一万餘を有します。此地の南西日向に境する邊は、山々が起伏して、破山もある故、種々赤鐵物を産します。さて白杵を立つて、各所を見物し、再び大分に戻つて、西北に向ひ、筑後川上流に就いて筑前に入り、順路を太宰府に行きました。太宰府乙昔兩筑を筑紫といひし頃の首都で、延喜年中菅原道真謫居の地となり、又文祿年中には、支那の元兵寇するの地ともなりましたが、今は太宰府天神として道眞を祀るの地となり、其

白杵

筑前國

太宰府

西に當つて、天拜山てんはいさんがあり、東北に乙御笠山おのりかささんがあります。是より北西海邊の方へ行きますと、彼の博多はくた織の本場博多はくたに達しました。博多港は、前面に志賀鼻しげなせとて、一條の長洲ながすぢ其上に青松を生じて横たはり、一つの灣をかこむ、即ち博多灣と呼び、博多之其灣頭の良港で市街東の箱崎はこさきと連り、人口二万を有し、西は福岡に續いて最も繁盛です。彼の元寇げんこうを防きたる此灣内にて、灣外と即ち玄界灘げんがい灘です。

福岡は、博多の西、那珂川なかとがわ河口を夾んで、博多と市街續き、人口五万三千餘、福岡縣廳があり、余程繁榮です。又此地より筑後の久留米くろみへ鐵道が通し、水陸共に便利となりました。さて國の東北の方へと申すに、遠賀川とんががわの注ぐ所に洞海どうかいとて、海水の深く入り込んだ所があつて、其岸に黒崎くろさきといふ名邑もありません。尙各所巡覽の末、福岡より肥後に入り、海岸屈曲の多くして、景色の佳麗かほれを賞しなから、遂に唐津からつに行きました。此地は松浦川まつらがわ河口にある小港で、川上の黒髪山くろかみ近傍の有田伊万里ありたいまりと共に

に陶磁器の産地を以て有名です。是より西北の東松浦半島中には、名古屋とて、豊臣秀吉が朝鮮を征伐する時本營を置いた地があり、其西の伊万里灣口には鷹島とて、元兵の平戸島ひらとから我兵に追はれて來て船艦悉く覆没ふくぼつせし所もありません。又、其灣の西南は更に西松浦半島が出來、其西は平戸海峡を隔て、平戸島があり、其西南海上には五島とて、宇久島うしく、中通島なかつう、奈留島なれう、賀島が、福江島ふくえなど大小無數の小島があつて、其福江島には福江、富江等の名邑もありません。此海上は鯨獵の最も盛んな所です。さて、西松浦半島を南に廻りますと、佐世保軍港させほぐんこうに達します。此所は海軍鎮守府かいぐんちんしゆふのある所で、是より其西南端が突出して、彼杵半島かきの北端と相對し、一大灣を抱たくものは、即ち鯛浦たいうらです。其口には針尾島はりおが横たはつて、左右に海峡があります。其より鯛浦の東岸に就いて、彼杵大村等かきおほむらを過ぎ、高來たかくの地峽をも越えて、島原半島しまはらへ行きますと、中央に温泉岳おんせんだけといふ火山があつて、東端は島原です。島原は人口一万七千餘の

都會で煙草など産します。此地は昔小西行长等の遺臣が耶穌教を信ずることより一揆を起し肥後の天草島より亂入せしことのあるので、歴史上にも著るれて居ます。而て此半島の南端早崎が肥後の天草島と相對して、海門とあり、兩肥筑後に亘れる一大灣を作り、之を筑紫海と申し、此外即ち半島の西と天草灘です。又筑紫海の灣頭、川上川の邊に行きますと、佐賀へ達します。

佐賀

佐賀は、人口二万六千餘、佐賀縣廳のある所で、市街繁盛、又刻煙草を産します。さて、内海を戻りて、彼杵半島の南部なる長崎へ行きました。

長崎

長崎は、日本五港の一つにて、人口五万八千餘を有し、長崎縣廳のある所で、二百四十年來の外國貿易場となり、四方より船舶雲集して、港市と殊に殷賑、甚繁榮を極め、港灣之西に向ひ、前に香燒島、蔭尾島と相並んで風濤を防ぎ、九州第一の良港です。又海上近くには高島とて有名の石炭坑があり、尙此國之其地に石炭の産出する所があつて、年額も非

壹岐國

勝本

對馬國

嚴原

筑後國

久留米

常のものです。又海岸之屈曲特に多く、陸地は殆どされくとなつて、屬島も夥多しきものです。さて是より瀛船に乗り、壹岐對馬へ向け出帆先づ壹岐に行きました。此所は肥前の西北海上にあり、其郷野浦港は西岸にあつて、南に岳嶺が峙ち、北岸に勝本とて島中第一の繁華地があり、兼て鐵器、作器を製出し、小船の多く寄泊する所です。其より西北の海上、對馬に行きますと、此島は壹岐の彼是四倍も大きく、中間に淺茅浦の一灣があつて、南北を分ち、北を上縣、南を下縣といひます。而て上縣の北端、朝鮮の釜山浦と海峡を夾み、其間僅か十五里です。下縣の東岸、有明山の麓に嚴原といふ名邑があつて、舊と府中と申し、人口は一萬に及びませんが、壹岐の勝本と相對し、船舶の寄泊する所故、稍繁華です。此邊の海中も亦鯨獵の特に盛んな所です。さて、嚴原を出帆して、今度は博多港へ販り直に福岡より瀛車にて、筑後の久留米へ到着しました。久留米は、肥前の境、筑後川の傍にあつて、人口二

柳川

肥後國

万五千餘を有し、四通八達要衝の地故市街繁昌、久留米、総生蠟等を産します。而て其東の方に、高良川があつて、豊後の境には、國中第一の高山御前岳が峙ち、國の中央部は星野川と、矢部川と、十文字に流れ、海邊の低地は、米穀も産します。其間にある柳川、甚繁盛の名邑で、人口一万二千餘、柳川織を製出します。其より南に行きますと、有名の石炭坑三池鑛山があつて、採掘最も盛んです。此所を見物して、今度は肥後に入り、先づ菊池川の下流に沿ふ高瀬へ行きました。高瀬は、菊池川沿岸の名邑です。而て菊池川源流の邊は、深葉山、鞍岳等の高山があり、上流の方には、山鹿といふ名邑もあつて、田原坂と共に西南の役戦争のあつた所です。さて、各所を跋渉しなから、熊本に達しました。

熊本

熊本、白川の下流北岸にある大都會で、人口五万四千餘を有し、熊本縣廳あり、又陸軍師團を置く所で、市街最も殷賑にて、有名の熊本城と、加藤清正の築造に係り、堅固第一と稱へ、大阪、名古屋と共に日本三名城

の一つに數へられましたが、西南の役、過半焼失せしは、惜しきことでした。城内に安する錦山神社と、即ち清正を祀るものです。而て白川の河口には、百貫石の港があつて、常に長崎と汽船が運ひます。其上流の方には、彼の有名の噴火山で、九州中央に當るといふ阿蘇山が、雲際に聳ゆる山上よりは、黒煙を吐き、其麓には、阿蘇神社があつて、甚壯嚴です。

◎阿蘇山

橋 南 路

今よひは、阿蘇の大宮司のもとに、一しくして、あすこそは、峯にのぼらんと、心ざせしに、晝過ぐる頃より、空の色少しわしうみゆれば、あすにちりて、雨ふり登山の縁をうしなはん事もやど、思ひめぐらすにぞ、必あはたゞしう成り來て、今よりと思へど、道なし、ずぐさんもはいなければ、山の北の麓の的石といふ里に入りて、あなひの人を頼みて、山北表より登る、木こりのみ行きかへば、道いと細く、けはし、絶頂に至り付けば、日既にくれ、てぬ晝參詣多き時に、商なふためと、旅人などの

行きくられたるが宿る爲に茅屋あり、只むしろもてかこひたるばかりにて、床とてもなし、此内に入りて宿る、名高き峯に登りつめて、空もいと近う星探るべき程なるに、夜あらしの吹わたる音も物すごとく、一山人類たえ、四方寂ばくたるに、夜ふくるまで、目もあはず、又もゆるわたりも、程遠からで、地震ひ山動く、世にある心地にこわらず、夜わけぬれば、さのふおもひしにこことなりて、山かづら引渡せる間に、朝日の影いと花やかなり、夜半のわびしさ引かへて、心いさめり、とく起出てもゆるところにいるる、大なる穴あり、是をみかどといふ、中のみかど北のみかど法性崎と名付く、都合三が所なり、當時さかんにゆるは法性崎なり、たとへばふいでの口のごとし、黒煙天を覆ひ、時々火出で、其音のおびたしきこと、只今此山みぢんに碎る心地す、其勢ひと筆に書つくすべきもわらず、しばし見居たれど、我身も山とともにくたけさるべき心地して、あくまでもみつくしがたし、少し下れば、大なる

堂あり、内に額あり、壽安鎮國山と書けり、是こもろこしの帝より、むかし此の山の靈異なることを傳へ聞き給ひて、此五字をもて、山を封じ給ひしなり、堂を傾き損じたり、人はもとより、住むべき所にあらず、むかしは是より下つかたに、寺院多くありしといふ、すべて絶頂は、海濱のごとくにして、硫黄の氣にて、白くみゆ、石は皆金く、その如くにして、土砂あることなし、しばし下れば、土見へ、草ありて、はじめて世界の氣色あり、西の方に、こるかに雲仙がだけあり、北の方に、豊前の彦山を望む、其外眺望は、四方の山にへだてたり、此阿蘇の山は、目八分の山四方を圍みて、堤を築きたるごとく、連りめくれり、其真中に、此阿蘇山のみ、基を別に、して一峰秀てたり、奇妙の地形なり、此山の四方のふもとを、阿蘇谷といふ、幅二三里ほどづゝにして、平田あり、只西の方のみ少しばかり、四方の圍の堤のごとき山されて、川流れ出たり、傳へ云ふ上古の世は、此地湖にて、阿蘇山と、みづらみの中の島なりしが、阿蘇の明神

むかし此國の守なりし時、西の方の山を切り通して水を落し、湖を干て田地となせり。誠に此地の様子をつらく見るに湖なりし事虚説に之をわらじと思ふ。又人智の古今なきことを感ず、それより山を下り、ふもとの本社ふしかかみ、神主は詩歌のすき人とさけば、音づるゝに、いなみもせず、いとしたしくもてなしぬれば、ひと日ふた日留る其家のこと尋しに、神孫たゞしく、天正の頃まで、三十五万石を領せるが、豊後の大友氏の爲に、零落せりとぞ、今にては其れもかげにもあらず、然れども位は貴く二位まですゝめる例なり、ふるき家なれば、色々珍敷事も多かり、殊に下野の狩といふありて、其狩の法今に傳へり、むかし鎌倉家の時、富士の牧狩の催し有りしかど、狩の法式たしかならざりしかば、梶原をして此阿蘇の大宮司の家へ尋させられけるとなり、今に其時の景時の尋の書面持傳へり、さて熊本より海邊の方を巡るに、一休の低地が打ち續き、米麥等の穀

天草島

穀物を多く産し、世に肥後米又は熊本米とて有名です。其より川尻を過ぎ、緑川の邊に行きますと、宇土といふ地を中心、西に長さ半島が出て、其端と三角峽を隔て、大矢野島があり、其西南に天草群島が横へり、上下二島となつて、東を上島、西を下島と申し、下島には富岡港、牛深をといふ名邑があります。さて半島を戻つて、海岸を南行すると、八代へ達します。八代と肥後灣に臨み、有名の急流、球磨川河口にある名邑で、舟泊の便もあり、前面遙に天草島を望み、景色最も明媚です。又是より東方は、遠く白鳥峯が立ち、其西は有名の五箇ノ庄です。さて、玖磨川の沿岸に就いて、順路人吉などを経て、遂には、一里山嶺を越えて、日向に入り、一ノ瀬川を傳つて、佐土原へ出で、漸く宮崎へ到達しましたは。

日向國

宮崎

宮崎と國の東邊海岸に近く、大淀川河口に跨り、市街昌盛、人口一万二千餘を有し、宮崎縣廳のある所です。是より海岸を北に行きますと、一ノ瀬川河口に高瀬、大丸川河口に高鍋、美々津川河口に美々津などの

延岡

名邑があつて、其より北には、五箇瀬川河口に延岡といふ地があります。
 延岡之豊後、肥後に至る要衝に當り、人口も一方に近き繁華の一邑
 です。さて海岸は日向灘に向ひて屈曲少なき故、良港に乏しいが、沿岸
 地方之平野が續きて穀物も産し、各所紙を製すること多くして、彼の日
 向半紙を産します。又宮崎より西の方大隅の境に、名高い噴火山に
 て二神垂跡の地と稱ふ霧島山があつて、常に噴煙が見え、山中には御池
 といふ小湖があり、又山上には天ノ逆鉾があるので、人々が危険を冒し
 て登山します。又大淀川の上流にある都ノ城といふ名邑は、大隅の要
 路に當りて、稍繁華の地です。其東北のは高千穂峯とて、天孫降臨の舊
 跡もあつて、人々の態々探る山峯です。さて都ノ城より山路を南海岸
 に出で、志布志を過ぎて、順路大隅へ入り、笠野原の邊へ行きました。此
 邊より南之一大半島をなして、其南西端は佐多岬にて薩摩の開闢岬と
 相對つて海門となり、其内に鹿兒島灣を抱き込みます。灣内には櫻島

都城

加治木
薩摩國

岳といふ噴火山があつて、其沿岸には温泉もあり、又野菜、菓物等を多く
 産し、其大根は甚圓大のものです。而て灣内は、鯛、刀魚、鯖魚などを多く
 獲します。併し國中には都會といふべき地がなく、唯煙草の産する國
 府其西灣頭にある加治木といふ所、稍小繁華です。其より順路薩摩
 に入り、鹿兒島に着きました。薩摩も亦中央以南之大半島をなし、南よ
 り西之外海に臨み、東は内海に濱を致して、大隅に連ります。又其南之
 山林に富みて多く良材を出します。

鹿兒島

鹿兒島之九州南部の大都會、灣の西岸にあつて、前面に櫻島を臨
 む景色最も佳く、島津氏累世居城の地となり、其城山は西南の役、西郷隆
 盛等戦亡の地です。而て人口五万六千餘、鹿兒島縣廳があり、市街は繁
 榮にして、煙草、竹細工、薩摩焼等を産し、各地より之甘薯、焼酎等を出すこ
 と特に著名です。さて是より西に向ひ、西岸の方に出で、又北に行く
 と、川内川があつて、沿岸地方は、牧草に富む故、牛馬を牧すること甚盛ん

です。又西の海上には甌島があつて、良好の硯石を産します。又北の方に、焼酎の産地阿久根といふ名邑があつて、是より北の方には、長島があつて、肥後灣の口に横はります。さて各所を緩々と巡覽して、再び鹿兒島に歸り、是より南洋諸島を志ざして、此所を出帆し、灣口に行きます。さて開闢一名薩摩富士といふが屹立して、其南には池田湖があります。さて此海門の邊は左右に奇岩が立つて、特に奇景です。是より大海に出ますと、薩摩の竹島、硫黄島、黒島が並び、尙大隅の種子島、屋久島、口之永良部島があつて、種子島と昔、蘭國人の來て、鐵砲を傳へた所です。尙西南に進航すると、數小島があつて、其次に大島があります。

大島

大島には、大熊港とて鹿兒島、琉球間航海の汽船が寄る小繁華の地もあります。島の東海上には、有名の喜界ヶ島があり、島の西南海上に、徳之島、沖之島、永良部島、與論島など、順次に並列して、次は琉球群島です。以上の島々より、甘薯、落花生、蕉鐵等を産し、紬、木綿、砂糖などを製造

琉球國

那覇

首里

しますが、大島は最も黒砂糖の製造盛んにて、世に大島砂糖とさへ申します。且つ琉球基本の地といつて、小琉球とも稱します。此次の彌々琉球へ渡り、那覇港へ着きました。さて琉球と本島を沖繩島と申し、西南の一群島を八重山群島と申します。那覇と本島の西南部那覇の傍にあつて、各地よりの船舶輻輳して常に賑ひ、其那覇は島中第一樞要の都會にて、人口四万二千許を有し、沖繩縣廳あり、市街と甚繁榮にして、其東方五十町の所にある首里といふ地は、舊王城の地で、王子官人の邸宅が並列して立派です。又久米泊の兩名邑と、名覇の東に連ります。而て島の北部海岸にある連天港と島中の良港にて、船を船するの便と、名覇港に勝ります。さて以上の名邑各地にては、泡盛、緞織、紬、芭蕉布、朱塗、漆器、砂糖、鹽豚などを製出して、甚著名です。又此地は熱帯地方に近き故、常に氣候暑く、四季共に草木の落葉することなきを以て、熱帯地方の植物も繁殖し、芭蕉、蔗、鐵、椰樹等よく生ひ、茂り、尙煙草、山藍等の産出も多

く、穀物など一一年中に兩度の收穫がおります。
 さて此地は、昔源ノ爲朝が當時其國亂を平げて王女と
 婚姻致し、尙氏は其血統であるといひます。其は借置き
 此島を發ちて八重山群島へ行き宮古島、石垣島、入俵島
 など巡つて、與那國島へと行きました。此島ハ琉球の
 西端即ち日本の最端に當つて、支那の臺灣島に近く最
 も熱帯の地です。さて以上の島々よりは、種々な産物
 を出し、漁獵も亦盛んです。是にて西海道を巡り終り
 ました。

◎西海道一覽表

凡 例

■治縣都府 ●名邑 □湖 △嶺山 ○港
 〓火山 △島

國名	山、礦山、温泉	川	湖	都 邑	産 物
筑前	御笠山 <small>中央ニアリ 又賀滿山</small>	遠賀川 <small>上流嘉麻川</small>		福岡 ●博多 太宰府	金屬、石炭、鹽、 米、野菜、茶、煙 草、果實、木材、 海藻、魚介、絹、 野禽、木綿、陶器、 樟腦
筑後	御前岳 <small>豐後ノ權現山 ナリ</small> 高良山 <small>中央ニアリ</small> 久三池	筑後川 <small>上流日田川</small> 矢田川 <small>合流シテ又分 流ス</small> 星野川 鴨生田池		●久留米 ●柳河	金銅、石炭、石類、 野菜、茶、藍、果 實、海藻、魚介、 野禽、獸、牛馬、 織物、蠟燭
豊前	彦山 <small>一名英彦山 西南隅</small> 貫霧山 <small>共ニ北方</small>	山國川 <small>一名高瀬川</small>		●小倉 ●中津 字 佐	金屬、石炭、鹽、 茶、杉、海藻、魚 介、織物、紙、生 蠟、陶器、七島蕨
豊後	文珠山 鶴見山 由布岳	大野川 <small>源流ハ久住川</small> 日田川 <small>下流筑後川</small> 大分川 <small>上流田布川</small>		●大分 ●日杵 別府	金屬、鹽、野菜、 茶、麻、葛、煙草、 木竹材、綿、藍、 海藻、魚介、織物、 蠟、紙、鑄物、七 島蕨

大隅	日向	肥後	肥前
北岳南部 八重嶽屋久島 櫻島岳 法華島中部	高千穂ノ峰 又東岳南部	霧島山 大隅ニ跨ル	天香山北境 黒髪山 盧空藏山 鯛浦ノ東岸 温泉岳 島原半島 高島
△櫻島	大瀨川 上流瀬川	球摩川 高瀬川 上流瀬川 下共ニ三島流	筑後川
加治木	宮崎	熊本	長崎
金銅、硫黄、煙草 密柑、果物、海藻 魚介、野海獸、砂 蠟、紙、陶磁器	金屬、野菜、麻 茶、人參、木材 茸、竹、海藻、木 介、野獸、紙、魚 蠟、樟腦	銅、石炭、米穀 野菜、煙草、茶 木材、蘭、海藻 魚介、牛馬、紙 陶磁器、蘭庭	石炭、野菜、煙草 木材、綿、海藻 甘藷、魚介、野禽 獸、木綿、砂糖 陶磁器、蔴、線 香、煙草

琉球	對馬	壹岐	薩摩
	三岳	魚釣山	紫尾山 久野
			鹿兒島 阿久根 谷山 勝本 原
			鐵器、竹器 石類、野菜、海藻 魚介、野禽、木綿
			鐵、硫黄、石炭 米穀、藍、煙草 落花生、木材、海 藻、竹、砂糖、陶 器、酒、尺、塗

さて是にて初めて大目的なる日本全國の巡旅を終

り、日を積み時を經るまゝに、めでたく東京の家には版り着きました。因つて熟々慮ふに、我帝國程最上國は、世界にまたとありません。願へば二千五百餘年の古しより瑞穂國と稱へて、米穀など優等の天産物に富むのみが、上には皇統連綿として至尊至徳なる

天皇陛下の常に我々臣民を愛撫し給ふの幸福もあつて、太平の月日を迎へ、温和の春秋を送るの愉快は實に地球上の萬國に求むるも、其比ひはありません。其故我々も、此世界に無比なる最上國を守つて

天皇陛下の高恩に報い奉るの大義務があるものです。

家庭教育 日本地理旅行談 大完

附 録

◎日本全國一覽表

○日本全國之位置	十六度四十七分	○全國廣袤	本洲	自五十一里至三百十三里
●極東東經	十七度	●九州	四國	自二十二里至五十二里
●極西西經	二十四度六分	●北海道	●北陸道	自三十四里至八十四里
●極南南緯	五十度五十六分	●四國	●近江	自百四里至百十四里
●極北北緯	四百二十四	●北陸道	●美濃	自百四里至百十四里
●全國島數一里以上	七千〇二十六里	●美濃	●尾張	自百四里至百十四里
●周圍里程	一、道 三府 四十三縣 八十五國 八百四郡 四十市 二十二區 七百三十九町 八万四千三百八十九村	●尾張	●越前	自百四里至百十四里
●全國分轄		●越前	●富山	自百四里至百十四里

◎著名山川湖表

- 一萬尺以上高山 富士山(駿河甲斐) 乘鞍岳(飛騨信濃) 赤石山(信濃) 白根山(甲斐)
- 九千尺以上 蘆華山(越中) 國師岳(信濃) 錫杖岳(信濃)
- 八千尺以上 八ヶ岳(甲斐) 駒ヶ岳(甲斐) 白山(加賀) 淺間山(信濃)
- 四千尺以上八千尺ニ至ル名山 巒岳(岩代) 香妻山(岩代羽前) 島海山(羽後) 飯豐山(岩代) 金峯山(甲斐) 那須岳(下野)
- 八重岳(屋久嶋) 月山(羽前) 伊吹山(近江) 立山(越中) 霧島山(日向) 天城山(伊豆) 石鏡山(伊豫) 比良山(近江) 遊樂部岳(渡島) 金北山(佐渡)
- 石狩川(北海道) 信濃川(本洲)
- 北上川(本洲) 利根川(本洲) 天鹽川(北海道) 荒川(本洲)
- 木曾川(本洲) 最上川(全上) 天龍川(全上)
- 野水川(本洲) 日高川(全上) 神通川(全上) 阿武隈川(全上) 江ノ川(全上)

●四十里以上
●二十里以上名河

大井川(本洲) 川内川(九州) 十勝川(北海道) 那珂川(本洲) 吉野川(四國)
阿賀川(本洲) 富士川(全上) 多摩川(全上) 西大川(全上) 釧路川(北海道) 筑後川(九州) 藤野川(本洲) 大野川(九州) 安居川(本洲) 宮川(全上) 相模川(本洲) 東大川(全上) 紀ノ川(全上) 榑梨川(全上) 御物川(全上) 一瀬川(九州) 五箇瀬川(九州) 能代川(本洲) 大川(本洲) 在田川(本洲) 矢作川(本洲) 大淀川(九州) 馬淵川(本洲) 珠摩川(九州) 黒部川(本洲) 在田川(本洲) 淀川(本洲) 十九里 琵琶湖(近江)
●周圍三十里以上 龍ヶ浦(常陸)
●周圍二十里以上 猪苗代湖(岩代) 北濱(常陸) 八耶湯(羽後) 小河原沼(陸奥) 印幡沼(下總) 十和田湖(陸奥) 穴道湖(出雲)
●周圍五里以上八里至十名湖 中禪寺湖(下野) 溜沼(常陸) 河北沼(加賀) 十三湯(陸奥) 牛久沼 三方湖 品井沼(陸前) 北方入江(越前) 千歲湖(膽振) 手賀沼(下總) 芦ノ湖(相模) 諏訪湖(信濃) 山中湖(甲斐)

●各道島嶼大小表

●周圍一千九百五十二里以上 本島
●周圍四百五十一里以上 四國本島
●周圍八百六十一里以上 九州本島
●周圍五百八十三里以上 蝦夷本島
●各道島嶼周圍百以上ノ島
●周圍七十以上ノ島
●周圍六十以上ノ島
●周圍五十以上ノ島
●周圍二十里以上四十里以下
得海島(北海道) 中道島(四海道) 福江島(四海道)
佐渡本島(北陸道) 大嶋(四海道)
新知島(北海道) 玄海島(四海道) 天草上島(四海道) 種子島(四海道) 小豆島(山陽道)
大島(山陽道) 占守島(北海道) 徳之島(四海道) 長島(四海道)

●府縣管轄國郡市區表

府縣	市區	所管
北海道廳	二區 札幌 函館	北海道十一國八十八郡
東京府	一市 東京 十五區	伊豆ノ内七島 丹波ノ内五郡 和泉全國五郡 丹波ノ内二郡
大阪府	一市 京都 二區	丹波ノ内七島 河内全國十六郡 播磨全國十六郡 但馬全國八郡 相模全國十二郡 豐後全國二郡 佐渡全國三郡
兵衛府	二市 大坂 堺 四區	肥前ノ内七郡 越後全國十六郡 武藏ノ内十七郡 下總ノ内八郡 常陸全國十二郡 上野全國十七郡 下野全國九郡 伊賀全國十三郡 紀伊ノ内二郡 大和全國十五郡 尾張全國十郡 駿河全國七郡 甲斐全國九郡 近江全國十三郡 美濃全國二十二郡 信濃全國十六郡 陸前ノ内十三郡 藥城ノ内十三郡
長崎縣	一市 長崎	對馬全國二郡
新嘉縣	一市 橫濱	安房全國四郡
埼玉縣	一市 水戸	志摩全國二郡
茨城縣	一市 高崎	
群馬縣	一市 津	
栃木縣	一市 宇都宮	
山梨縣	一市 名古薩	三河全國十郡 伊豆ノ内四郡 遠江全國十二郡
靜岡縣	一市 靜岡	
愛知縣	一市 名古屋	
岐阜縣	一市 岐阜	
滋賀縣	一市 仙臺	
長野縣		
宮城縣		

埼玉縣 〔武藏ノ内〕 北足立 新座 入間 高麗 比企 橫見 秩父 兒玉 賀集 那珂 大里 燗川
 〔下總ノ内〕 榛澤 男衾 北埼玉 北葛飾 中葛飾
 〔安房一圓〕 安房 平 朝夷 長狹
 〔上總一圓〕 天羽 周准 望陀 夷隅 市原 長柄 上埴生 山邊 武射
 〔下總ノ内〕 千葉 東葛飾 印旛 下埴生 南相馬 香取 匝碓 海上
 〔常陸一圓〕 水戸 東茨城 西茨城 那珂 久慈 多賀 鹿島 行方 新治 筑波 信太 河内
 〔下總ノ内〕 葛城 岡田 豐田 西葛飾 猿島 北相馬
 東群馬 南勢多 西群馬 北勢多 片岡 練野 多胡 南甘樂 北甘樂 碓氷 吾妻
 利根 山田 新田 邑樂 佐位 那波
 足利 梁田 安蘇 下都賀 上都賀 河内 芳賀 楡谷 那須
 橋上 添下 山邊 廣瀨 平群 式上 式下 宇陀 十市 高市 葛上 葛下 郡
 海 宇智 吉野
 阿拜 山田 名張 伊賀
 津 桑名 員辨 三重 朝明 鈴鹿 菟蓰 河出 安濃 一志 飯高 飯野 多氣 度會
 若志 茨城
 南牟婁 北牟婁
 名古屋 愛知 東春日井 西春日井 丹羽 葉栗 中島 海東 海西 知多
 碧海 幡豆 額田 東加茂 西加茂 北設樂 南設樂 寶飯 渥美 八名
 賀茂 那賀 田方 君澤
 靜岡 駿東 富士 庵原 有波 安倍 志太 益津
 藤原 佐野 城東 周智 豐田 山名 磐田 長上 敷知 濱名 鹿玉 引佐
 甲府 東山梨 西山梨 東八代 西八代 南巨摩 中巨摩 北巨摩 南都留 北都留
 山梨縣 〔甲斐一圓〕

滋賀縣 〔近江一圓〕 滋賀 栗太 野洲 甲賀 蒲生 神崎 愛知 犬上 服田 東淺井 西淺井 伊香
 高島 岐早 厚見 各務 方縣 羽栗 中嶋 海西 下石津 多摩 上石津 不破 安八
 大野 池田 本巢 鹿田 山縣 武鏡 郡上 加茂 可兒 土岐 惠那
 大野 益田 宮城
 長野縣 〔信濃一圓〕 南佐久 北佐久 小縣 諏訪 上伊那 下伊那 四筑摩 東筑摩 南安曇 北安曇
 更級 埴科 上高井 下高井 上水内 下水内
 仙臺 柴田 名取 宮城 黒川 加美 志田 玉造 栗原 遠田 登米 桃生 牡
 鹿 本吉
 刈田 伊具 亙理
 福島縣 〔磐城ノ内〕 信夫 伊達 安達 安積 岩瀬 南會津 北會津 耶麻 大沼 河沼
 〔岩代一圓〕 東白河 四白河 石川 田村 菊多 磐前 磐城 檜葉 檜葉 行方 宇多
 〔磐城ノ内〕 盛岡 南岩手 北岩手 紫波 神寶 東和賀 西和賀 江刺 膽澤 四警井 東磐
 井 西閉伊 南閉伊 東閉伊 中閉伊 北閉伊 南九戸 北九戸
 氣仙 二戸
 山形縣 〔羽前ノ内〕 弘前 東津輕 西津輕 中津輕 南津輕 北津輕 上北 下北 三戸
 山形 米澤 南村山 東村山 西村山 北村山 最上 東田川 西田川 西置賜
 東置賜 南置賜 飽海
 秋田縣 〔羽後ノ内〕 秋田 南秋田 北秋田 山本 河田 由利 仙北 平鹿 雄勝
 〔羽後ノ内〕 鹿角
 〔陸中ノ内〕 〔若狹一圓〕 三方 遠敷 大飯

石川縣	〔越前一團〕 〔加賀一團〕 〔能登一團〕	福井 足羽 吉田 阪井 大野 南條 今立 丹生 敦賀 金澤 江沼 能美 石川 河北 羽咋 鹿島 鳳至 珠洲
富山縣	〔越中一團〕	富山 高岡 上新川 下新川 婦負 射水 礪波
島取縣	〔因幡一團〕 〔伯耆一團〕	鳥取 邑美 法美 岩井 八上 八束 智頭 高草 氣多 河村 久米 八橋 汗入 會見 日野
島根縣	〔田雲一團〕 〔石見一團〕 〔隱岐一團〕	松江 島根 秋鹿 意宇 能義 仁多 大原 出雲 柘瀧 神門 飯石 瀨原 安濃 邑智 那賀 美濃 鹿足 周吉 穩地 海士 知夫
岡山縣	〔美作一團〕	眞島 大庭 西四條 西北條 東南條 東北條 勝北 吉野 英田 勝南 久米北條 久米南條
廣島縣	〔備前一團〕 〔備中一團〕 〔備後一團〕	岡山 御野 津高 赤阪 磐梨 和氣 邑久 上道 兒島 都宇 窪屋 淺口 小田 後月 下道 賀陽 上房 川上 哲多 阿賀 御調 世羅 深津 沼隈 安那 瀧田 品沼 神石 甲奴 三次 三輪 奴可 三 上 惠蘇
山口縣	〔安藝一團〕 〔周防一團〕 〔長門一團〕	廣島 安藝 佐伯 沼田 高宮 山縣 高田 加茂 豐田 大島 玖珂 熊毛 都濃 佐渡 吉敷 赤間關 厚狹 豐浦 美福 大津 阿武 兒島
和歌山縣	〔紀伊ノ内〕	和歌山 名草 海部 那賀 伊都 有田 日高 西牟婁 東牟婁
德島縣	〔阿波一團〕	德島 名東 勝浦 那賀 海部 名西 板野 阿波 麻植 美馬 三好
香川縣	〔讃岐一團〕	高松 大内 寒川 三木 小豆 山田 香川 阿野 鞆足 那賀 多度 三野 豐田

愛媛縣	〔伊豫一團〕	松山 宇摩 新居 周布 桑村 越智 野間 風早 和氣 温泉 久米 下浮穴 伊 豫 上浮穴 喜多 東宇和 四宇和 南宇和 北宇和
高知縣	〔土佐一團〕	高知 土佐 高岡 吾川 長岡 香美 安藝 幡多
福岡縣	〔筑前一團〕 〔筑後一團〕 〔豐前ノ内〕 〔豐後ノ内〕	福岡 糟屋 宗像 遠賀 鞍手 嘉麻 磯波 上座 下座 夜須 御笠 那珂 席 田 怡土 志摩 早良 久留米 生葉 竹野 御井 御原 山本 三浦 上妻 下妻 山門 三池 企救 田川 京都 仲津 築城 上毛
大分縣	〔豐前ノ内〕 〔豐後一團〕	下毛 宇佐 西國東 東國東 速見 大分 北海部 南海部 大野 直入 玖珠 日田
佐賀縣	〔肥前ノ内〕	佐賀 佐賀 神崎 基肆 三根 餐父 小城 東松浦 西松浦 杵島 藤津
熊本縣	〔肥後一團〕	熊本 飽田 託麻 宇土 玉名 山鹿 山本 菊池 合志 阿蘇 上益城 下益城 八代 葦北 球磨 天草
宮崎縣	〔日向ノ内〕	宮崎 北那珂 南那珂 北諸縣 西諸縣 東諸縣 兒湯 東白杵 西白杵
鹿兒島縣	〔日向ノ内〕 〔大隅一團〕 〔薩摩一團〕	南諸縣 薩南 始良 桑原 東會野 西會野 南大隅 北大隅 肝原 大島 熊毛 敷設 鹿兒島 鹿兒島 谿山 日置 阿多 楳宿 川邊 額娃 給添 飯島 薩摩 高城 南伊佐 北伊佐 出水
沖繩縣	〔琉球一團〕	
北海道	〔渡島一團〕 〔後志一團〕 〔石狩一團〕 〔天鹽一團〕	函館 龜田 上磯 茅部 松前 檜山 爾志 久遠 奥尻 太樺 瀬棚 紋部 島牧 古平 美園 積丹 岩内 古宇 歌葉 磯 谷 小樽 高島 忍路 余市 札幌 札幌 空知 夕張 樺戸 雨龍 上川 石狩 厚田 渡益 増毛 留萌 苫前 天鹽 中川 上川

五 港

特別輸出港

◎五港特別輸出港

武藏橫濱港 攝津神戸港

伊勢四日市港 長門赤間關港

肥前唐津及三角港 肥前門司港

肥前島原口ノ津港

〔北見一團〕	宗谷 枝幸 利尻
〔膽振一團〕	山越 室蘭 虻田
〔日高一團〕	沙流 新冠 静内
〔十勝一團〕	廣尾 當麻 十勝
〔釧路一團〕	厚岸 釧路 白糠
〔根室一團〕	根室 花咲 野付
〔千島一團〕	國後 色丹 得撫
	禮文 網走 常呂
	有珠 幌別 勇拂
	浦河 様似 幌泉
	中川 河西 河東
	川上 網走 足寄
	標津 目梨 足寄
	新知 占守 根別
	網走 紗那 釧路
	白老 千歳

◎各國名勝地

嵐山ノ櫻花

吉野山ノ櫻樹

茅渟浦ノ風光

箕面山ノ紅葉

三保崎ノ松原

鎌倉ノ江島

湖畔ノ八景

磯山田毎ノ月

日光ノ瀑布

松島ノ青松

布引瀑大瀑

丸山ノ雪眺

月夕瀨ノ梅林

住吉ノ松月

清見瀨ノ眺望

木曾川ノ寢覺床

宮城川ノ萩花

鴨川ノ納涼

須磨浦ノ明媚

桃谷ノ桃林

高尾梅尾紅葉

肥前長崎港

對馬殿原及鹿見港

石狩小樽港

越後新潟港

越中伏木港

根室根室港

渡島函館港

攝津大阪港

筑前博多港

大山和泉津河櫻相近信下越

播磨丹波丹波丹波丹波丹波丹波

東 京

大津 和津 津 張 江 城 前 前 波 路 波 岐 波 前 前 阿 筑 肥

吉野宮跡 笠置宮跡 橿原宮跡
 一ノ谷 福原 湊川 茶臼山 四天王寺
 長湫 桶狭間
 大津宮跡 姉川戰場 高穴穗宮跡
 勿來關跡 白川關跡
 多賀城跡
 藤島戰場
 順德帝宮跡
 後鳥羽宮跡 後醍醐宮跡
 龜山城跡
 淳仁宮跡
 土御門宮跡
 太宰府跡 朝倉行宮跡
 原城跡

◎三府名勝地

上野公園

神田神社

芝大神宮

増上寺

湯島天神

山 河 甲 信 美 陸 越 長 伯 美 廣 肥 日
 城 丙 嬰 濃 濃 中 中 門 寺 磨 作 岐 後 向
 比叡山 千早城跡 赤坂城跡
 天目山 川中島 木曾峽
 關ヶ原 衣川棚跡
 栗般谷 檀ノ浦 豐浦宮跡
 船上山 白旗城跡
 院ノ庄 崇仁宮跡 鼠島戰場
 熊本城 高千穂宮跡

天神庭 但馬 岩井 石見 布引 丹波 深山 備後 伊豫 筑前 肥前 肥後 日向 阿蘇 寒山 湯前 劍路

●燈臺所在地

武藏品川 全川崎羽根田 全橫濱波止場 相模觀音崎 安房野崎崎 下總大吹崎
 相模劍崎 全羽崎副燈 相模城夕島 伊豆石塚崎 下田神子元島 遠江御前崎
 志摩菅島 全安乘島 相模野崎 全吉ヶ島 細伊瀬崎 磯津和田崎
 全大坂天保山 全神戶波止場 淡路江崎 讚岐鍋島 伊豫釣島 越前立石崎
 肥前ノ間島帽子島 肥前口ノ津 長門六連島 長門角島 全白州 肥前伊土崎
 全大瀬崎 根室舞天島 全薩ノ尾島 大隅佐多崎 陸奥尻矢崎 陸前金崎崎
 陸前石ノ巻 全納沙布島

●軍艦

噸數(佛噸) 馬力 乘組定員
 總數三十五艘 六萬千七百六十三噸 七萬六千六百六十五馬力 五千七百二十六人
 △腰島 鋼製 四千二百七十八噸 五千四百馬力 百九十八人
 △松島 同 四千二百七十八噸 五千四百馬力 百八十七人
 高千穂 同 三千七百五十九噸 七千七百二十馬力 四百十八人
 千代田 同 三千七百五十九噸 七千七百二十馬力 三百五十五人
 八重山 同 二千四百四十八噸 五千四百馬力 三百九十八人
 千七百四十八噸 五千四百馬力 二百十八人

筑紫 千三百七十二噸 二千四百馬力 二十六人
 △千島 同 七百五十噸 五千馬力 七十六人
 △橋立 同 四千二百七十八噸 五千四百馬力 二十六人
 大島 同 六百四十噸 二百馬力 百六十八人
 赤城 同 六百二十二噸 二千五百七馬力 三百二十人
 高雄 鋼骨鐵皮 千九百二十七噸 九百七十馬力 百七十八人
 愛宕 同 七百四十四噸 三百九百三十二馬力 三百人
 扶桑 鐵製甲鐵帶三千七百七十七噸 七百三十五馬力 百五十八人
 摩耶 鐵製甲鐵帶三千七百七十七噸 七百三十五馬力 百五十八人
 鳥羽 鐵製甲鐵帶三千七百七十七噸 七百三十五馬力 百五十八人
 △金剛 鐵骨木皮 二千二百八十四噸 二千二百二十七馬力 三百五十八人
 比叻 同 二千二百八十四噸 二千二百二十七馬力 三百五十八人
 葛城 同 千六百五十六噸 千七百一十一馬力 二百二十二人
 大和 同 千六百五十六噸 千七百一十一馬力 二百二十二人
 武藏 同 千六百五十六噸 千七百一十一馬力 二百二十二人
 龍驤 木製鐵帶 二千五百七十一噸 八百馬力 二百六十六人
 筑波 木製鐵帶 千九百七十八噸 五百十九馬力 百三十八人
 天龍 同 千五百四十七噸 七百十馬力 二百五十八人
 日進 同 千四百九十二噸 千三百七馬力 百四十八人
 海門 同 千四百二十九噸 千二百馬力 百九十七人
 春日 同 千二百八十九噸 七百二十馬力 百五十八人
 天城 同 七百八噸 五百九十馬力 六十二人
 磐城 同 三百二十一噸 三百九十四馬力 九十五人
 鳳翔 同 千四百六十四噸 六百六十六人
 迅鯨 同 八百六十二噸 二百四十四馬力 百九十四人

石館子 八百三十三噸
 川山球 六百十二噸
 同同同 二百五十三噸
 (注意) 馬力ノ記載ナキモノハ風帆船ナルニ因レリ

◎東京日本橋ヨリ各府縣元標ニ至ル里程

京都府	京都三條大橋	東海道通リ	百三十三里三十三町
大阪府	大阪高麗橋	京都ヲ經テ	百四十三里二十町
兵庫縣	橫濱本町	神奈川ヲ經テ	八里十五町
新瀉縣	神戶元通町	京都及山崎ヲ經テ	百四十九里二十町
千葉縣	新瀉本町	長野及高田ヲ經テ	百九里十九町
茨城縣	浦和中町	中山道通リ	六里三町
群馬縣	千葉本町	市川ヲ經テ	十里七町
栃木縣	水戸上市泉町	土浦ヲ經テ	二十九里三十一町
群馬縣	前橋連登町	熊谷伊勢崎ヲ經テ	二十八里九町
茨城縣	宇都宮池上町	陸羽街道通リ	二十七里三十五町
三浦縣	奈良三條通	大津及伏見ヲ經テ	百四十二里十四町
愛知縣	津分部町	四日市ヲ經テ	百十二里二十一町
靜岡縣	名古屋城通町	熱田ヲ經テ	九十四里三十一町
山梨縣	靜岡吳服町	東海道通リ	四十六里十三町
滋賀縣	甲府錦町	甲府街道通リ	三十六里七町
岐阜縣	大津上京町	東海道通リ	百二十八里八町
長野縣	岐阜白木町	名古屋ヲ經テ	百四里十六町
富山縣	長野大門町	上田ヲ經テ	五十九里二十町
石川縣	仙臺大町	陸羽街道福島ヨリ	九十三里二十町
福井縣	福島上町	陸羽街道通リ	七十一里八町
石川縣	盛岡紺屋町	陸羽街道仙臺ヨリ	百四十里六町

山形縣	青森米町	陸羽街道仙臺ヨリ	百九十一里六町
秋田縣	山形七日町	米澤通リ	九十五里三十町
福井縣	秋田大町	石古屋岡ヶ原ヲ經テ	百三十六里十八町
石川縣	福井照手上町	石古屋福井ヲ經テ	百五十八里二十九町
富山縣	金澤尾張町	名古屋金澤ヲ經テ	百七十六里
島根縣	富山西町	京都及津山ヲ經テ	二百八里二十町
廣島縣	松江登町	京都及姫路ヲ經テ	百八十五里二十八町
岡山縣	廣島橋本町	京都及廣島ヲ經テ	二百三十一里四町
山梨縣	廣島細工町	姫路及若槻ヲ經テ	二百六十六里六町
和歌山縣	山口大市町	大阪ヲ經テ	二百一里十三町
德島縣	鳥取西町	明石ヲ經テ	百六十一里九町
香川縣	和歌山京橋	下津井丸龜ヲ經テ	百七十七里三十二町
愛媛縣	德島西横町	同	二百七里
高松縣	高松岩盤橋	下津井川江ヲ經テ	二百三十六里卅三町
高知縣	高知本町	京都及小倉ヲ經テ	二百三十三里卅五町
福岡縣	福岡橋口町	同	三百三十三里卅一町
大分縣	大分荷揚町	同	三百三十三里卅一町
佐賀縣	佐賀白山町	小倉及山家ヲ經テ	三百三十三里卅一町
熊本縣	熊本新町	小倉久留米ヲ經テ	三百三十三里卅一町
鹿兒島縣	宮崎上野町	小倉及大分ヲ經テ	三百二十六里十九町
鹿兒島縣	鹿兒島山下町	小倉及熊本ヲ經テ	三百六十七里廿四町
鹿兒島縣	琉球那利	鹿兒島大島ヲ經テ	五百六十六里二十九町
鹿兒島縣	琉球那利	青森函館ヲ經テ	五百六十六里卅一町
鹿兒島縣	石狩札幌		二百七十五里十四町

◎歷代天皇遷都。山陵

後花園天皇 同上
 後土御門天皇 山崎平安宮
 後柏原天皇 (以下孝明天皇迄十八代ノ皇御陵ハ共ニ全上)
 今上天皇 山崎平安武藏東京
 同東山長福寺陵

二十

附錄終

明治廿六年十月廿九日 印刷
 明治廿六年十一月三日 發行

正價金廿錢



大阪市東區谷町三丁目四番屋敷寄留

著者 神保孝慶

大阪市東區淡路町二丁目九十三番屋敷

發行者 藤谷虎三

大阪市東區和泉町二丁目八番屋敷前野活版所

印刷者 前野茂久次

大阪市東區淡路町二丁目八番屋敷

發兌元 文陽堂

東京市神田區西小川町二丁目

發兌元 博文堂

各府縣大賣捌書林

東京通一丁目
 全 三丁目
 全 南傳馬町
 全 新大阪町
 全 室町三丁目
 全 兩國若松町
 全 神田一ツ橋通町
 全 表神保町
 全 尾張町二丁目
 全 神田美土代町
 大阪北久太郎町四丁目
 全 備後町四丁目
 全 安堂寺町心齋橋
 全 心齋橋南
 京都寺町通四條
 全 寺町通松原
 愛媛縣西條町
 神戶相生橋東

大倉書店
 丸善書店
 目黒支店
 小林喜右衛門
 杉本七百丸
 柳原友吉
 有斐閣
 東京堂
 東海堂
 武藏屋
 柳原喜兵衛
 梅原龜七
 吉岡平助
 青木嵩山堂
 松村九兵衛
 田中治兵衛
 內山改進堂
 金川支店
 熊谷久榮堂

德島市
 名古屋本町三丁目
 雲州松江
 金澤市尾張町
 富山市四十物町
 全
 靜岡市馬場町
 東海道沼津町
 全 濱松連尺町
 岡山市西大寺町
 福岡市中島町
 熊本市新二丁目
 鹿兒島六日町通
 山梨縣甲府
 長崎市
 越後高田
 信州長野
 仙臺市國分町
 宇都宮大工町

阪井萬吉
 川瀨代助
 川岡清助
 雲田根
 中田書
 清源明
 文源堂
 蘭契社
 齋藤源三郎
 武內彌三郎
 積善館支店
 長崎幸次郎
 吉田幸兵衛
 柳田正堂
 安中半三郎
 室直三郎
 西澤喜太郎
 山本音四郎
 內山港三郎

